

# 令和2年度 スーパー・メガリージョン形成による 新たなライフスタイル・ビジネススタイルの可能性調査の結果について



2021年3月  
内閣府地方創生推進事務局

# 目次

## 1. 調査概要

## 2. 調査結果

- ・中間駅の地域とのかかわり方
- ・移住・サブ拠点・別荘地の居住形態
- ・求める環境
- ・実現したい年齢
- ・新たなライフスタイル・ビジネススタイルの実現可能性
- ・ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件
- ・コロナ禍を経ての意向の変化
- ・スーパー・メガリージョンの実現にあたって期待すること

# 1. 調査概要

# 調査概要

## 目的

- リニア新幹線により出現するスーパー・メガリージョンの集積効果を最大限に高めるため、スーパー・メガリージョン形成に伴い期待される新たなライフスタイル・ビジネススタイルの可能性について、調査を実施するもの。

## 内容

### ○調査名

リニア中央新幹線による新たなライフスタイルの可能性に関するアンケート

### ○実施期間

令和3年2月22日（月）～25日（木）

### ○調査対象者及びサンプル数

- ・東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）・中部圏（愛知県）に居住する人
- ・世帯年収について、下記の区分ごとに200サンプルを集め、計1200サンプルを想定  
400万円未満、400万円以上600万円未満、600万円以上800万円未満、800万円以上1000万円未満、  
1000万円以上1500万円未満、1500万円以上（調査結果について、回答者の母数が30サンプル以下の場合は参考と記載）

### ○調査方法

スクリーニング調査により、居住地・世帯年収を確認した上で対象に合致する人に対し、上記サンプル数になるよう本調査を実施。

### ○その他

回答者に対しては、スーパー・メガリージョンに関する以下の事前説明を提示した上でアンケートを実施。

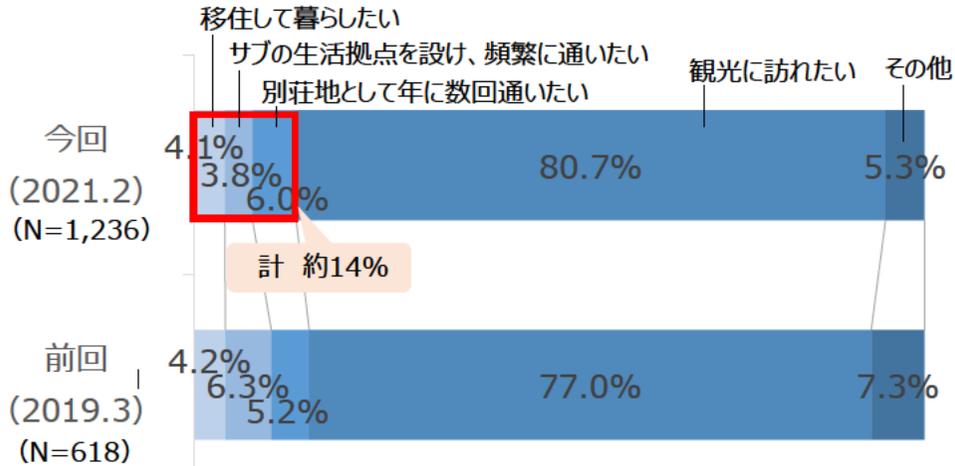
- ・スーパー・メガリージョンとは、リニア中央新幹線の全線開業によって、東京・名古屋・大阪間が約1時間で行き来できるようになることで誕生する、世界で類例のない巨大都市圏。今まで以上に各都市間の結びつきが強まり、新たなライフスタイル・ビジネススタイルが生まれることも期待されています
  - ・2027年には品川、名古屋間の開通が予定されており、途中の中間駅として神奈川県相模原市、山梨県甲府市、長野県飯田市、岐阜県中津川市に停車します。
  - ・品川～名古屋を40分（予定）で結び、現在の新幹線のぞみでの最速1時間29分から大幅に時間短縮がされます。
  - ・また、想定運賃は、新幹線の運賃に+700円程度が想定されています。（2014年JR東海の記者会見より）
- 2027年には品川～名古屋間のリニア中央新幹線の開業が予定されており、その頃にはIT技術や交通環境などのさらなる進歩により、様々なライフスタイルやワークスタイルが実現されることも期待されています。そこで、どういったライフスタイルやワークスタイルがイメージできるか、あなたのお考えをお聞かせください。

## 2. 調査結果

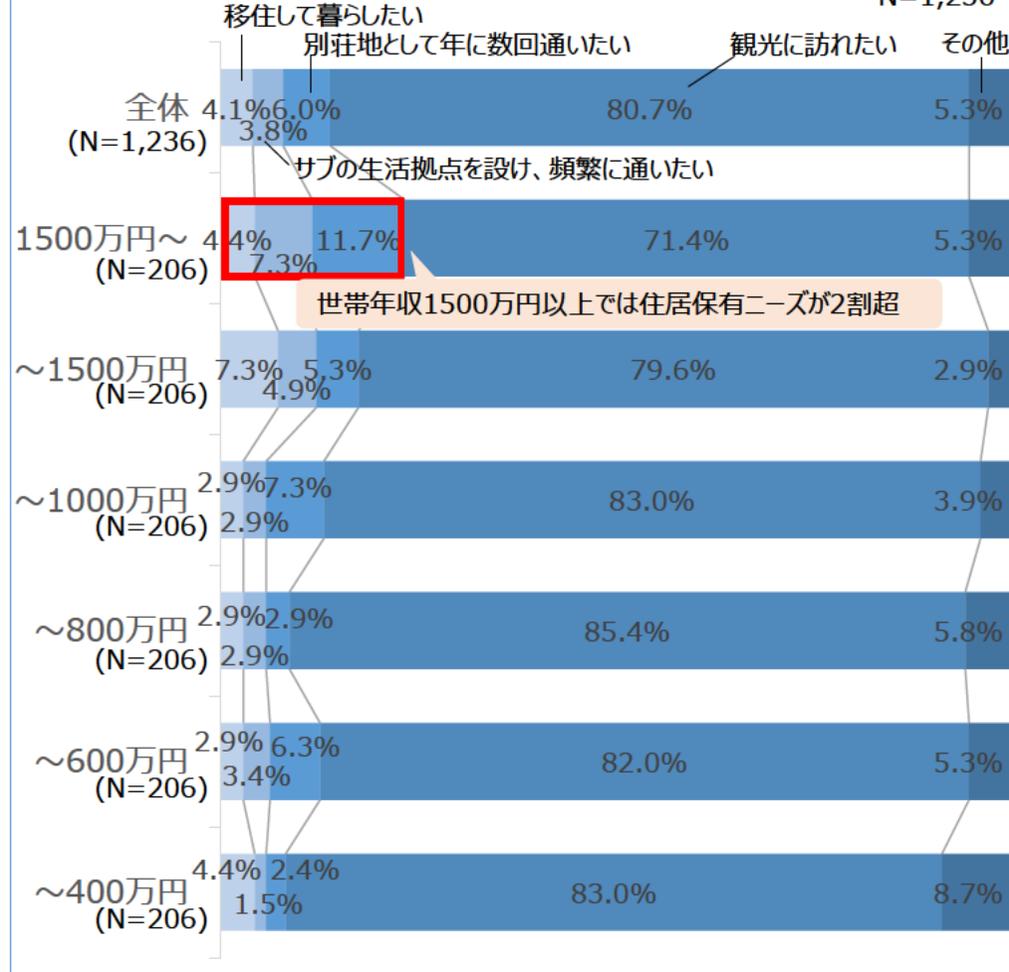
# 1. 中間駅の地域とのかかわり方

○中間駅の地域とのかかわり方について、「移住やサブ拠点・別荘の保有」については約14%である一方、「観光に訪れたい」が81%で最も多い。前回調査よりも「移住」はほぼ変化なく、「サブ拠点」が2.5%減り、「別荘地」「観光」が増えている。  
 ○年代では移住は20代、サブ拠点は30代、別荘地は40代と60代で比較的ニーズがあり、世帯年収では1500万円以上で高い。

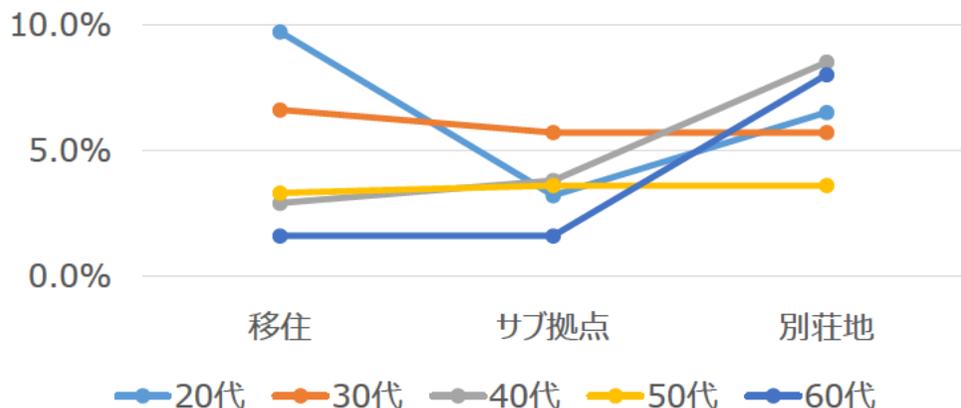
### 中間駅とのかかわり方(前回との比較)



### 世帯年収×中間駅とのかかわり方



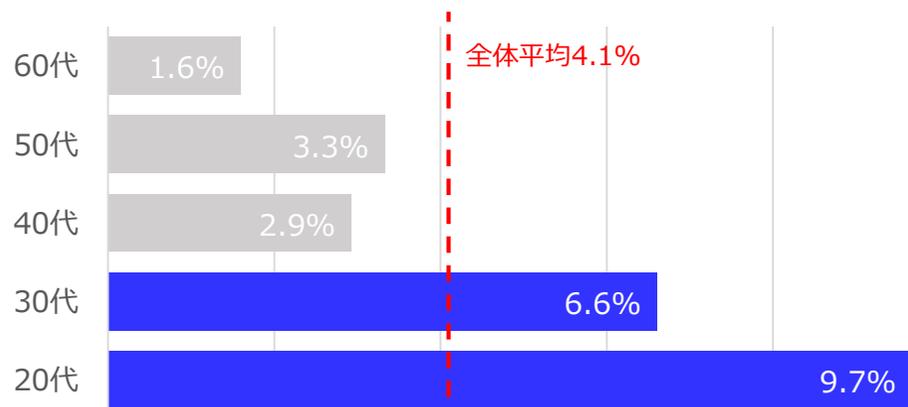
### 年代×移住・サブ拠点・別荘地



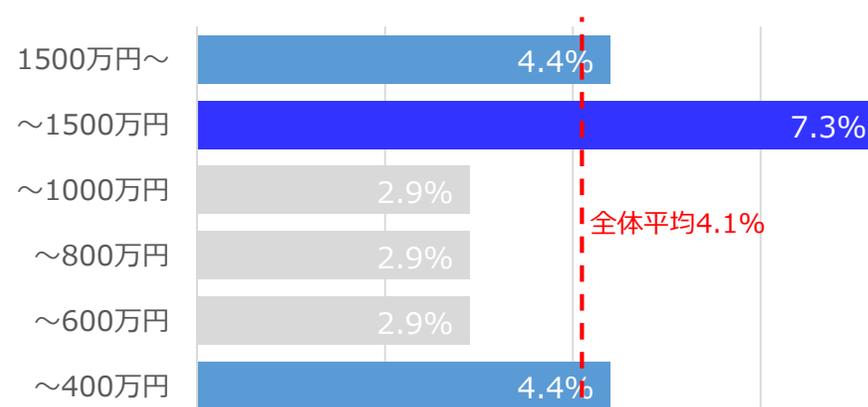
# <参考>「移住して暮らしたい」と回答した回答者の属性

- 住宅一次取得層である20代・30代や、賃貸住宅に住んでいる世帯で、移住して暮らしたいニーズがある。
- 世帯年収が1000～1500万円の世帯で比較的、移住して暮らしたいニーズがある。
- 公務員では移住して暮らしたいニーズがあり、一方、経営者では移住して暮らしたいニーズは見られない。

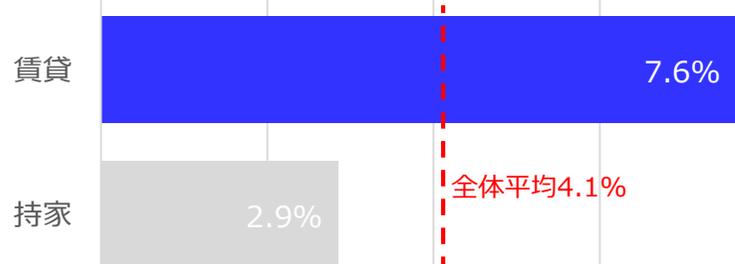
### 年代×移住して暮らしたい



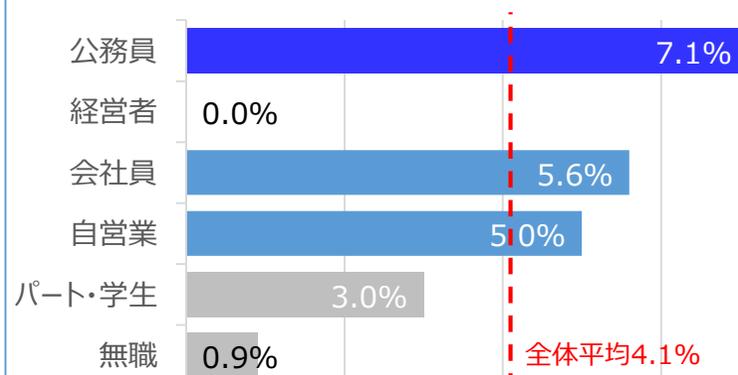
### 世帯年収×移住して暮らしたい



### 居住形態×移住して暮らしたい



### 職業×移住して暮らしたい



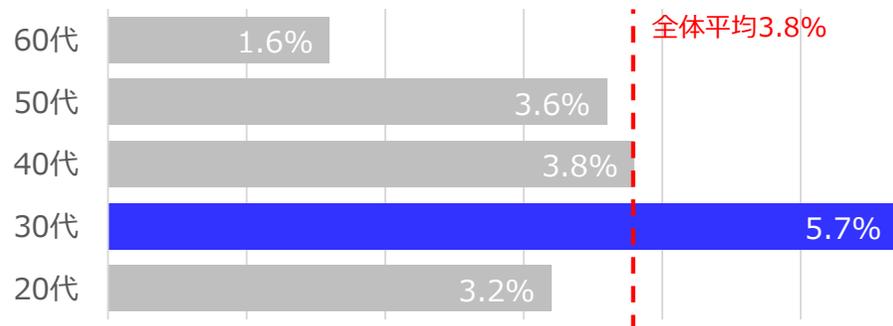
<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)～25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 6

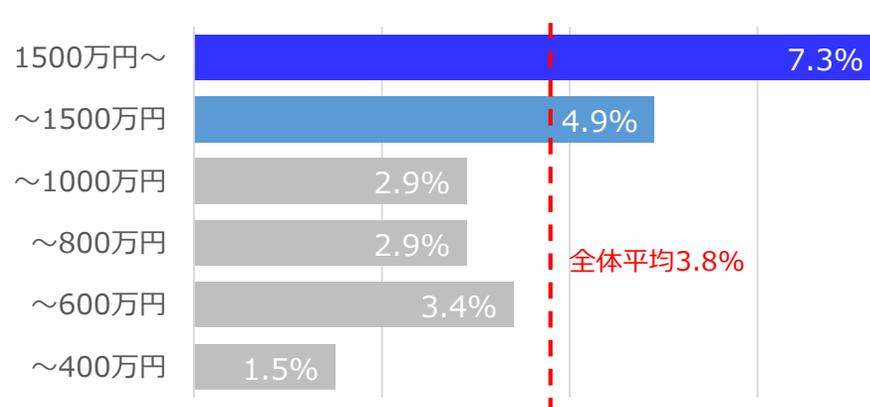
# <参考>「サブの生活拠点を設けたい」と回答した回答者の属性

- 30代が最もニーズが高く、未婚、または子供がいる世帯では7～12歳の末子がいる世帯で比較的ニーズがある。
- 世帯年収では1000万円以上、職業では経営者、会社員、自営業で比較的ニーズがある。

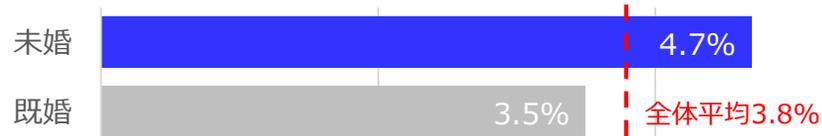
## 年代×サブの生活拠点を設けたい



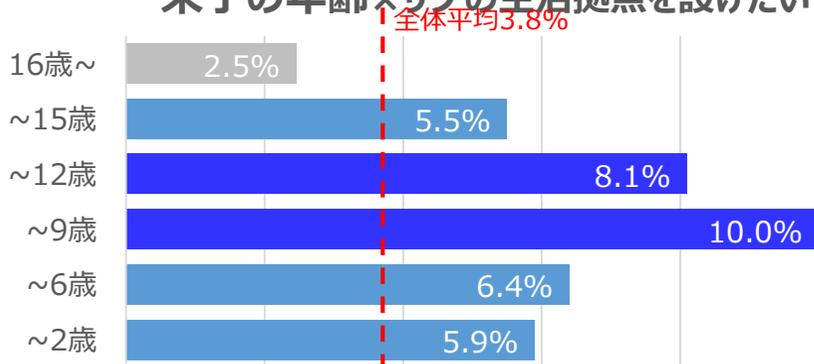
## 世帯年収×移住して暮らしたい



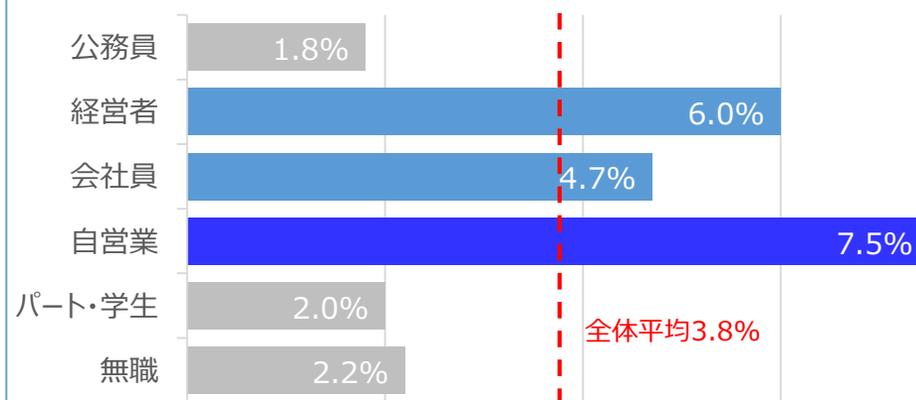
## 未既婚×サブの生活拠点を設けたい



## 末子の年齢×サブの生活拠点を設けたい



## 職業×サブの生活拠点を設けたい



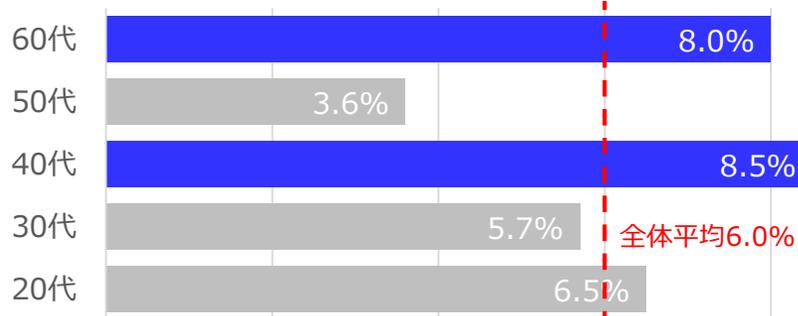
<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)～25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名

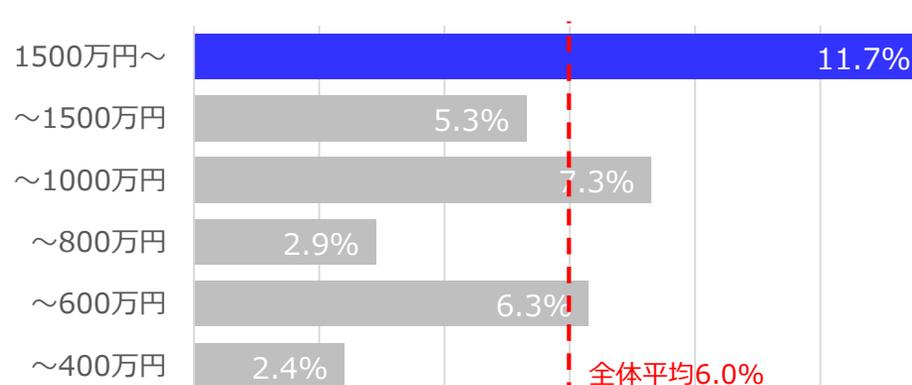
# <参考>「別荘地としたい」と回答した回答者の属性

- 40代と60代でニーズがある。また、既婚者の方がニーズが高く、夫婦と子、夫婦のみ世帯で比較的ニーズがある。
- 世帯年収1500万円以上の世帯でニーズがある。
- 業種では、教育業、不動産業でニーズが高く、医療業、金融保険業でも比較的ニーズがある。

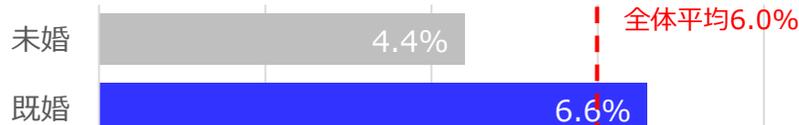
## 年代×別荘地としたい



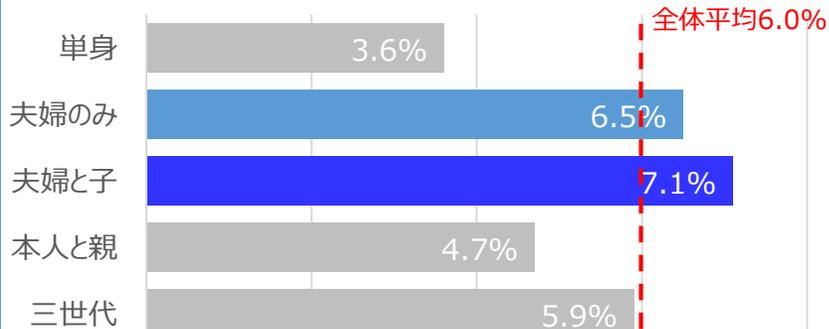
## 世帯年収×移住して暮らしたい



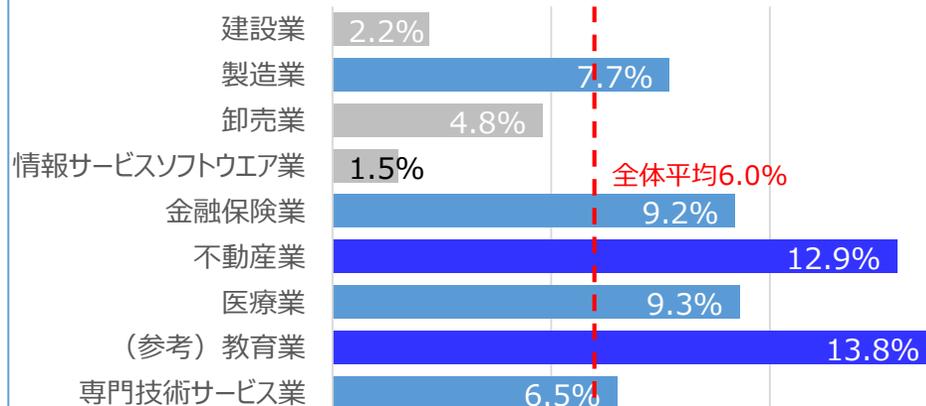
## 未既婚×別荘地としたい



## 世帯構成×別荘地としたい



## 業種×別荘地としたい

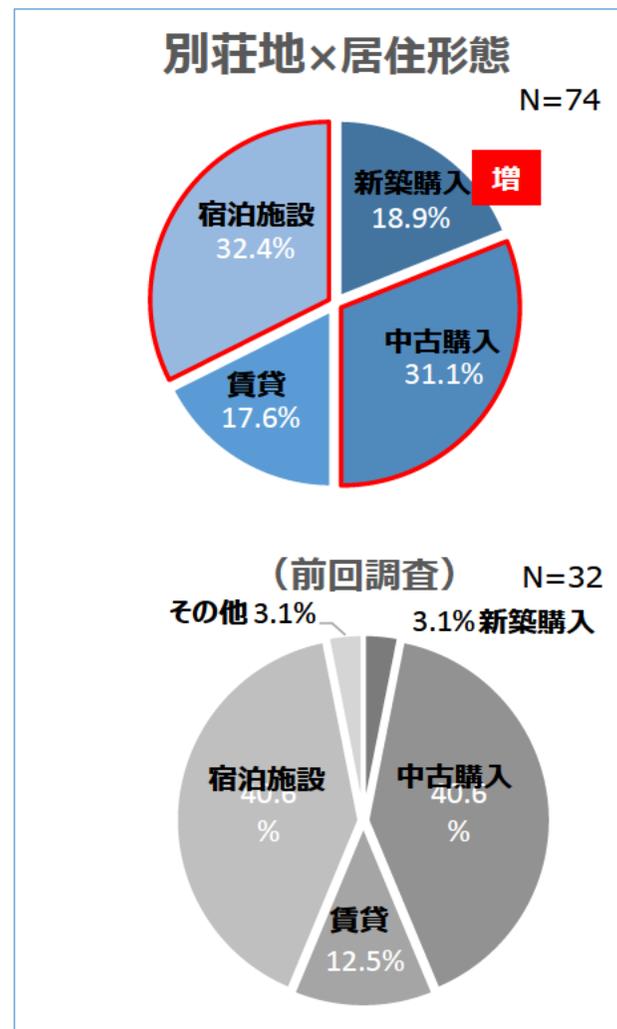
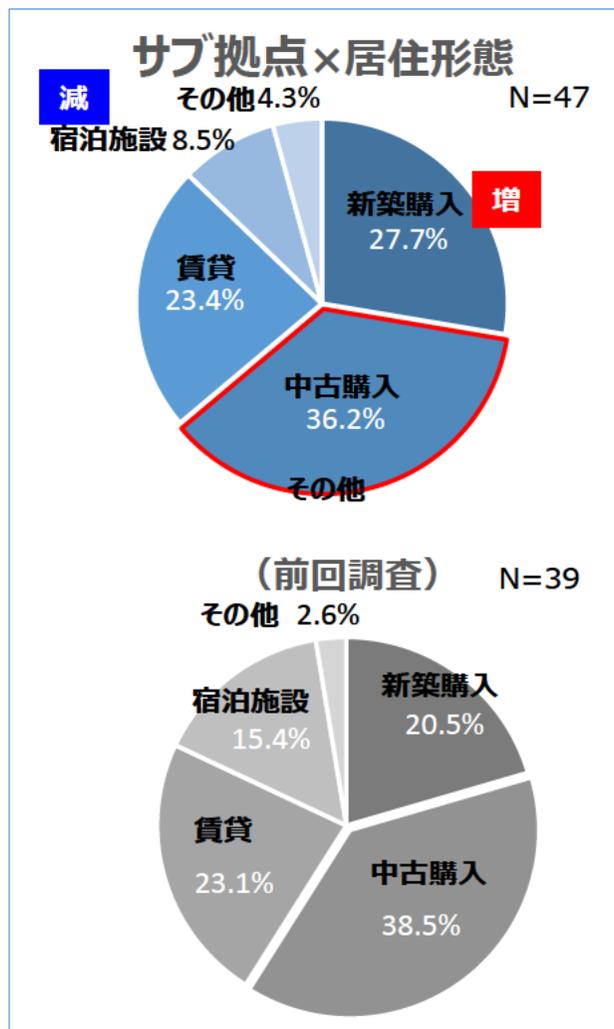
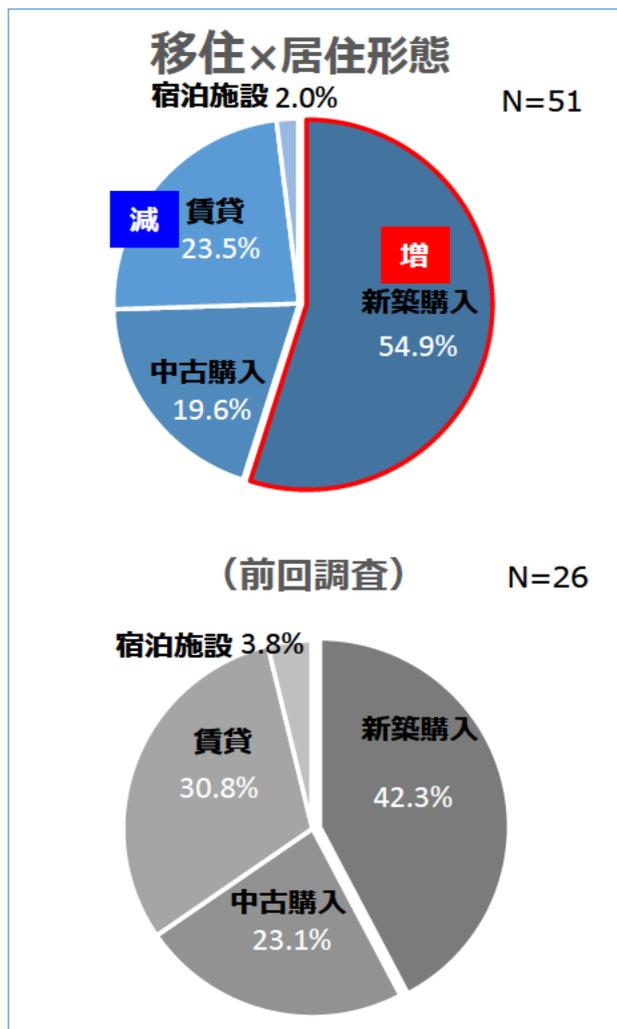


<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)～25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名

## 2. 移住・サブ拠点・別荘地の居住形態と住居の広さ

- 「移住して暮らしたい」では、新築購入が5割強と最多。前回よりも新築購入が増加、賃貸が減少。
- 「サブの生活拠点を設け、頻繁に通いたい」では、中古購入が4割弱と最多。前回よりも新築購入が増加。
- 「別荘地として年に数回通いたい」では、中古購入・宿泊施設利用が3割強ずつと多い。前回よりも新築購入が増加。



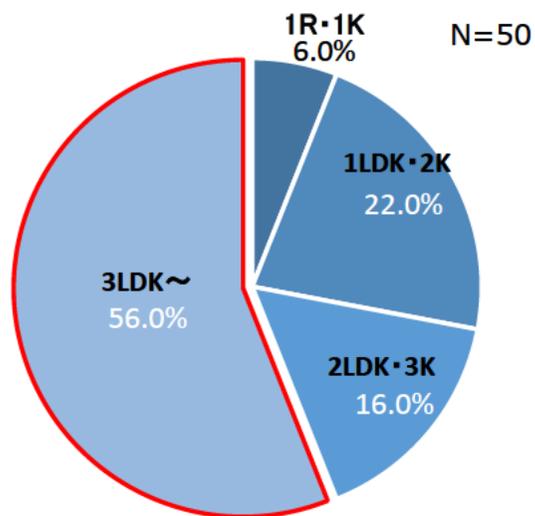
<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名

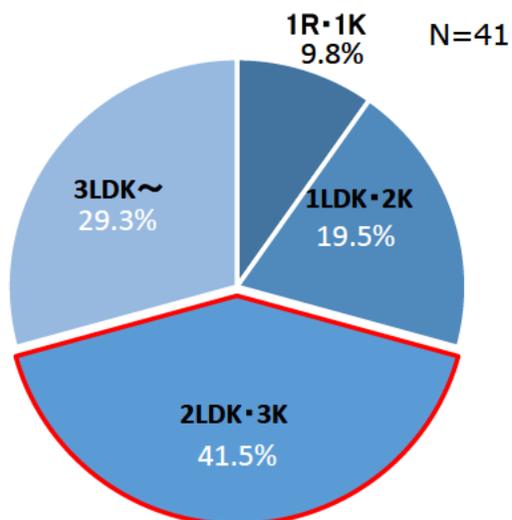
## 2. 移住・サブ拠点・別荘地の居住形態と住居の広さ

- 「移住して暮らしたい」では、3LDK以上が6割弱。
- 「サブの生活拠点を設け、頻繁に通いたい」では、2LDK・3Kが4割強。
- 「別荘地として年に数回通いたい」では、2LDK・3Kが5割弱。

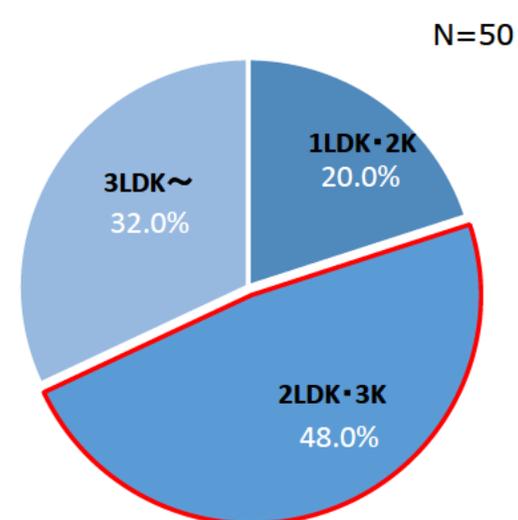
### 移住×住居の広さ



### サブ拠点×住居の広さ

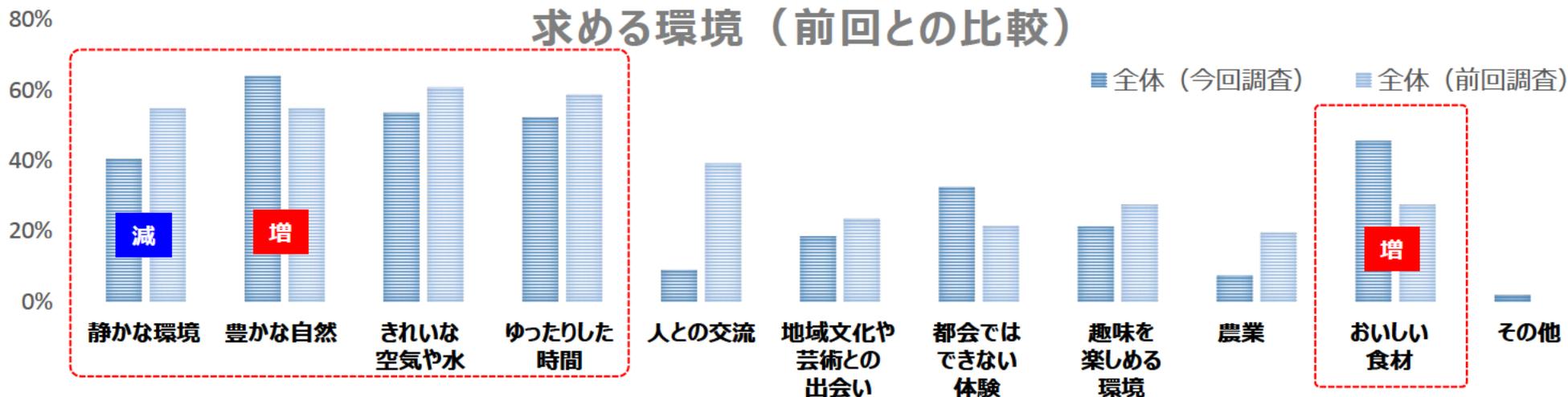


### 別荘地×住居の広さ

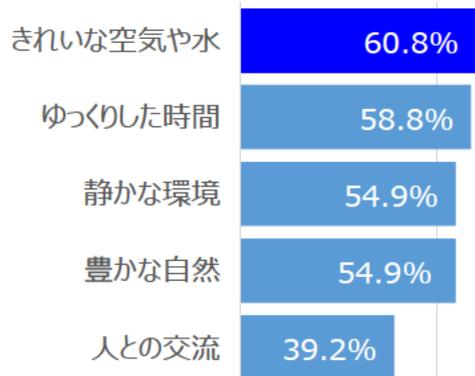


# 求める環境

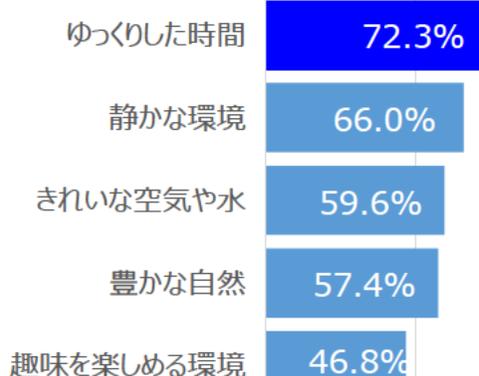
- 全体的には「静かな環境」「豊かな自然」「きれいな空気や水」「ゆったりした時間」「おいしい食材」が多く求められる傾向。
- 前回よりも「豊かな自然」「おいしい食材」が増え、「人との交流」が大きく減り、「静かな環境」が減っている。
- 移住、別荘地、観光では、「きれいな空気や水」が最も求められており、サブ拠点では「ゆっくりした時間」が最も求められている。



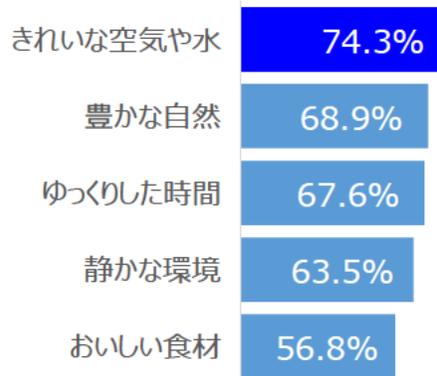
## 移住×求める環境Top5



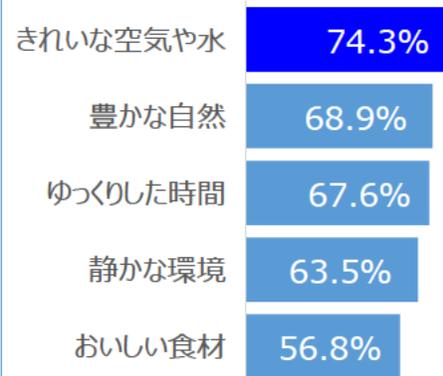
## サブ拠点×求める環境Top5



## 別荘地×求める環境Top5



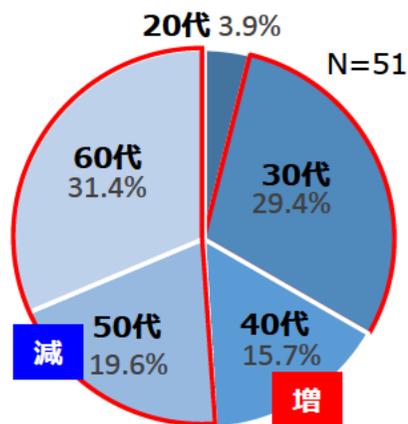
## 観光×求める環境Top5



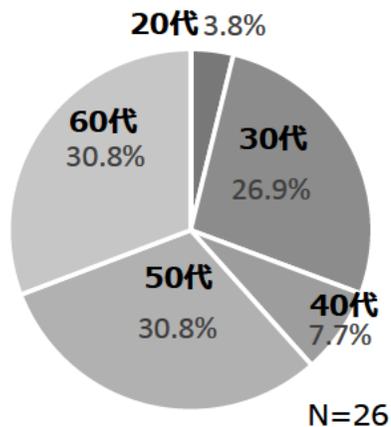
# 実現したい年齢

- 「移住して暮らしたい」は、住宅の一次取得が見込まれる30代と、子育てが終わる50代60代に2極化しているが、前回よりも若い世代の比率が増加傾向にある。
- 「サブの生活拠点を設け頻繁に通いたい」は、50代60代で約7割。40代も2割強。
- 「別荘地として年に数回通いたい」は、60代が5.5割、次いで50代と、50代・60代で3/4を占める。

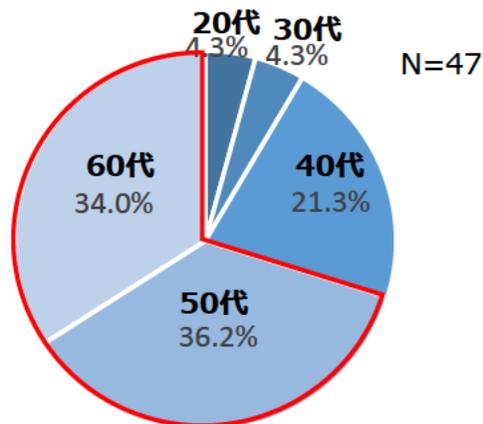
## 移住×実現したい年齢



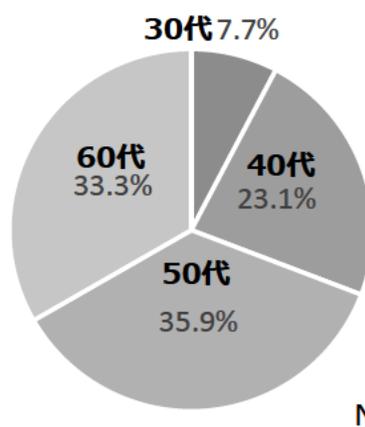
(前回調査)



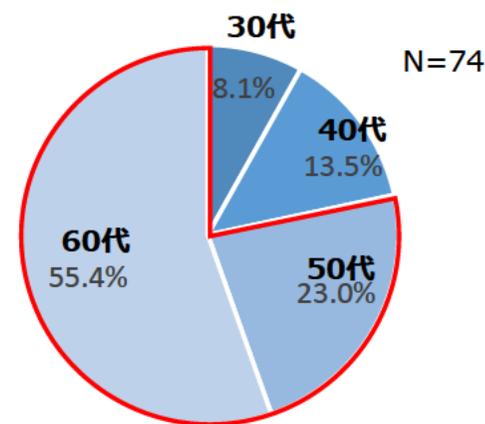
## サブ拠点×実現したい年齢



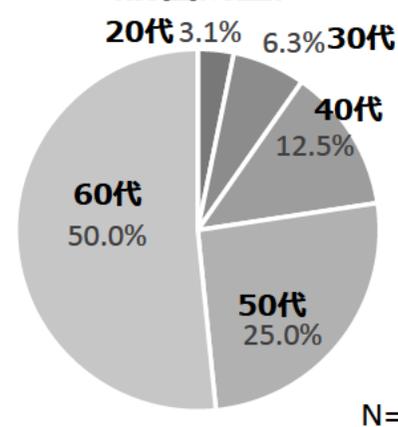
(前回調査)



## 別荘地×実現したい年齢



(前回調査)



<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 12

# 新たなライフスタイル・ビジネススタイルの実現可能性

○新たなライフスタイル・ビジネススタイルについて、「すでに想定でき実現したい」、「条件がそろえば実現したい」を合わせると、

- ・地方に住み、リニア通勤する暮らしは、約2割弱が回答。
- ・地方に住み、普段はサテライトオフィスで仕事をする暮らしは、約1/4が回答。
- ・家族の住まいが地方で、都心にて単身赴任の二地域居住は、2割が回答。
- ・家族の住まいと勤務地が都心で、週末に地方で過ごす二地域居住は、約1/4が回答。

■すでに想定でき実現したい ■条件がそろえば想定でき、実現したい ■条件がそろっても想定や実現はできない

## 【リニア通勤（毎日）】

住まい（家族を含む）は地方、勤務地は都心にあり、毎日リニア新幹線で通勤（1時間未満）する暮らし



## 【リニア通勤（不定期）】

住まい（家族を含む）は地方、勤務地は都心にあり、月に数日だけ都心に通勤し、普段は地方の住まいやサテライトオフィスで仕事をする暮らし



## 【二拠点居住（平日都心へ単身赴任）】

家族の住まいが地方、サブの住まいが都心（二拠点居住）、勤務地は都心にあり、平日は都心で単身赴任する暮らし



## 【二拠点居住（地方別荘）】

家族の住まいが都心、サブの住まいが地方（二拠点居住）、勤務地は都心にあり、休暇に地方で過ごす暮らし



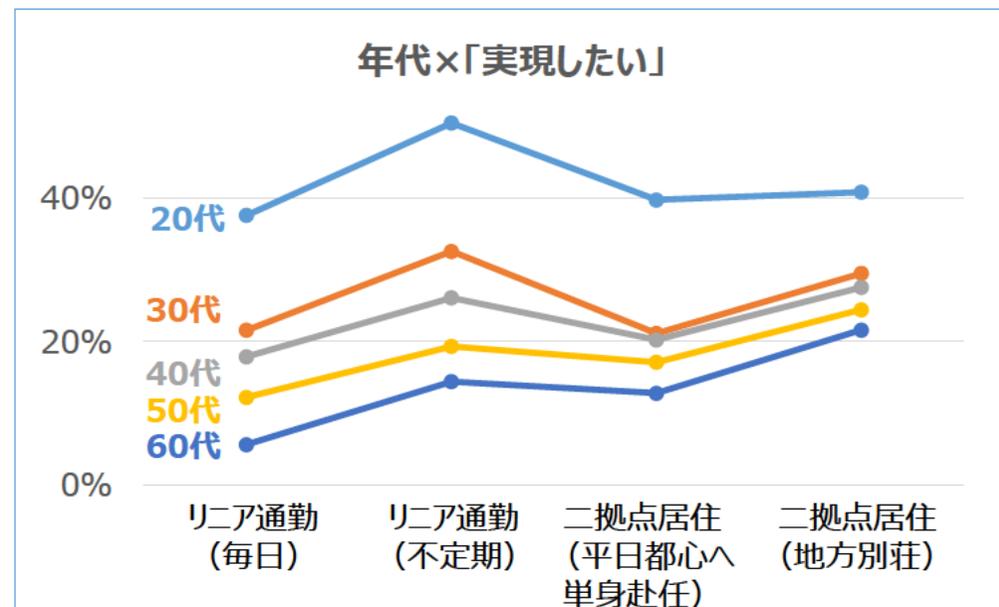
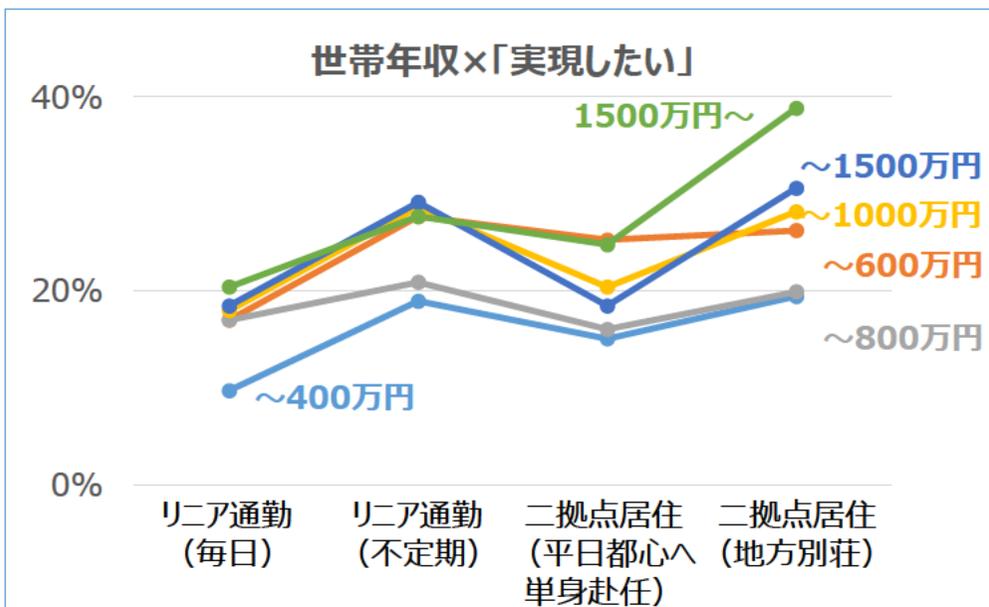
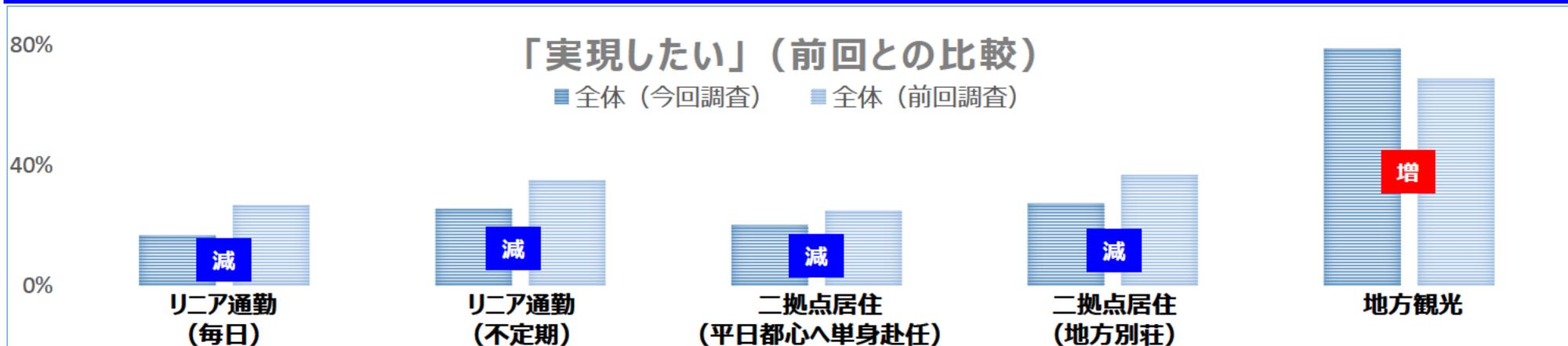
## 【地方への観光】

住まいと勤務地は都心にあり、休暇に地方へ観光に訪れる暮らし



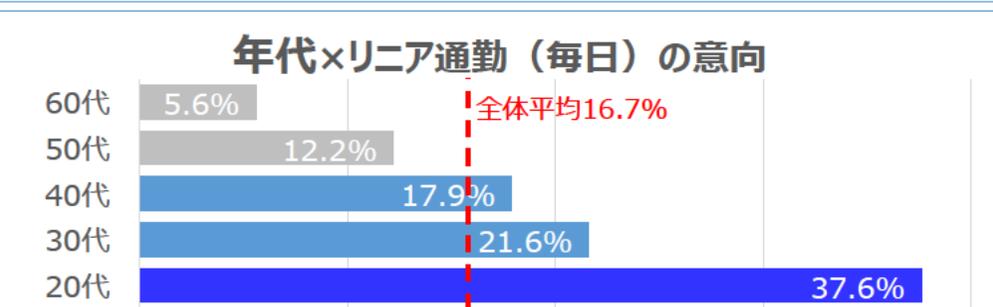
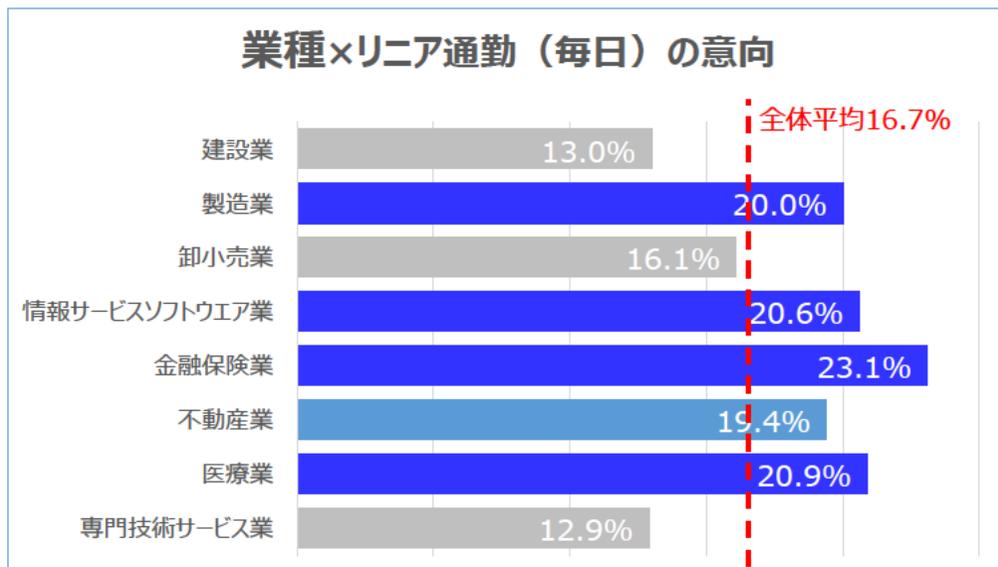
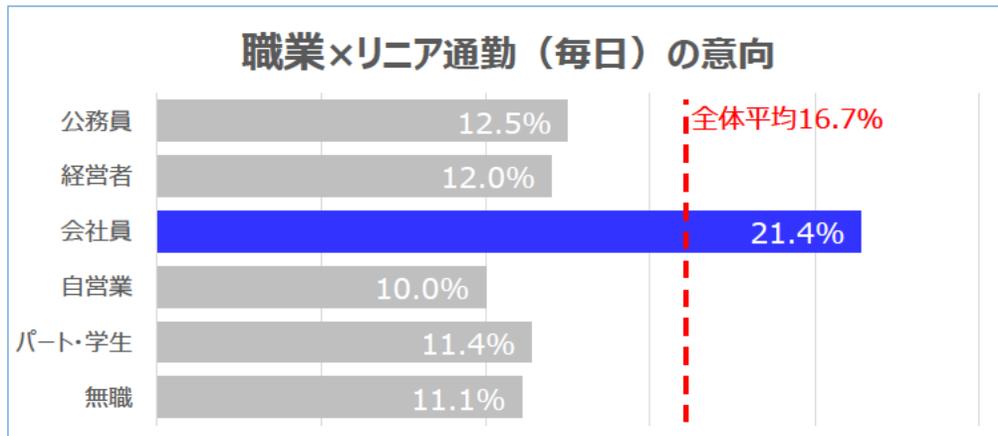
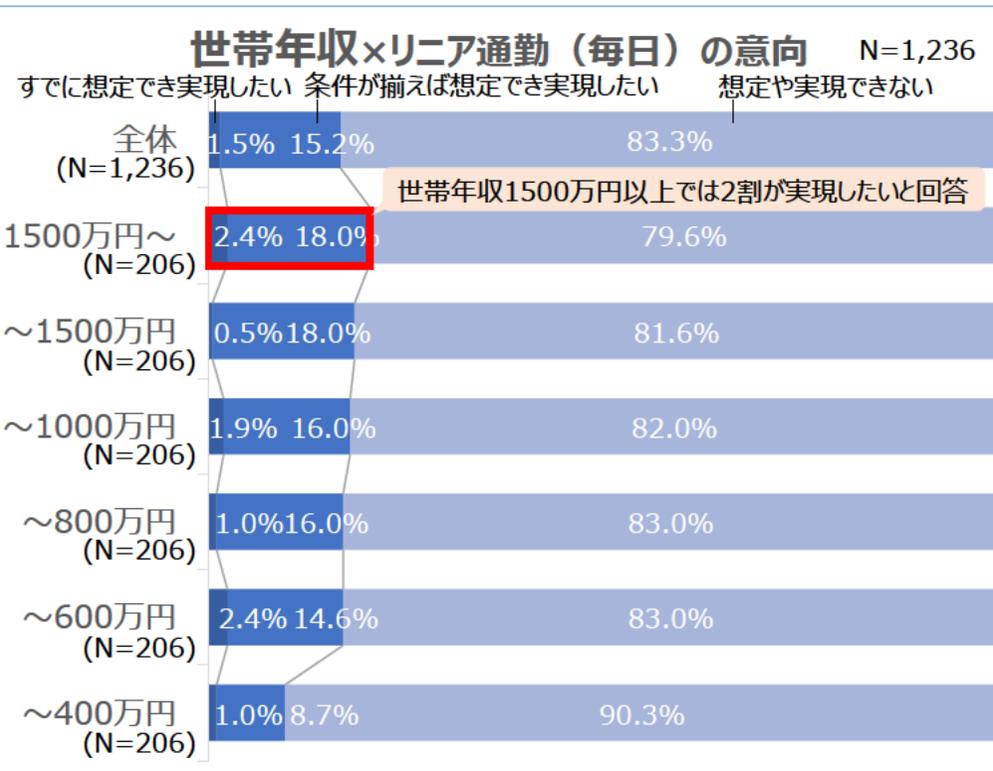
# 新たなライフスタイル・ビジネススタイルの実現可能性

- 「すでに想定でき実現したい」、「条件がそろえば実現したい」を合わせた「実現したい」では、
- ・前回よりも、地方観光以外は減少している。
  - ・どのライフスタイル・ビジネススタイルでも、世帯年収が高いほど、年齢が若いほど、意向がある傾向。



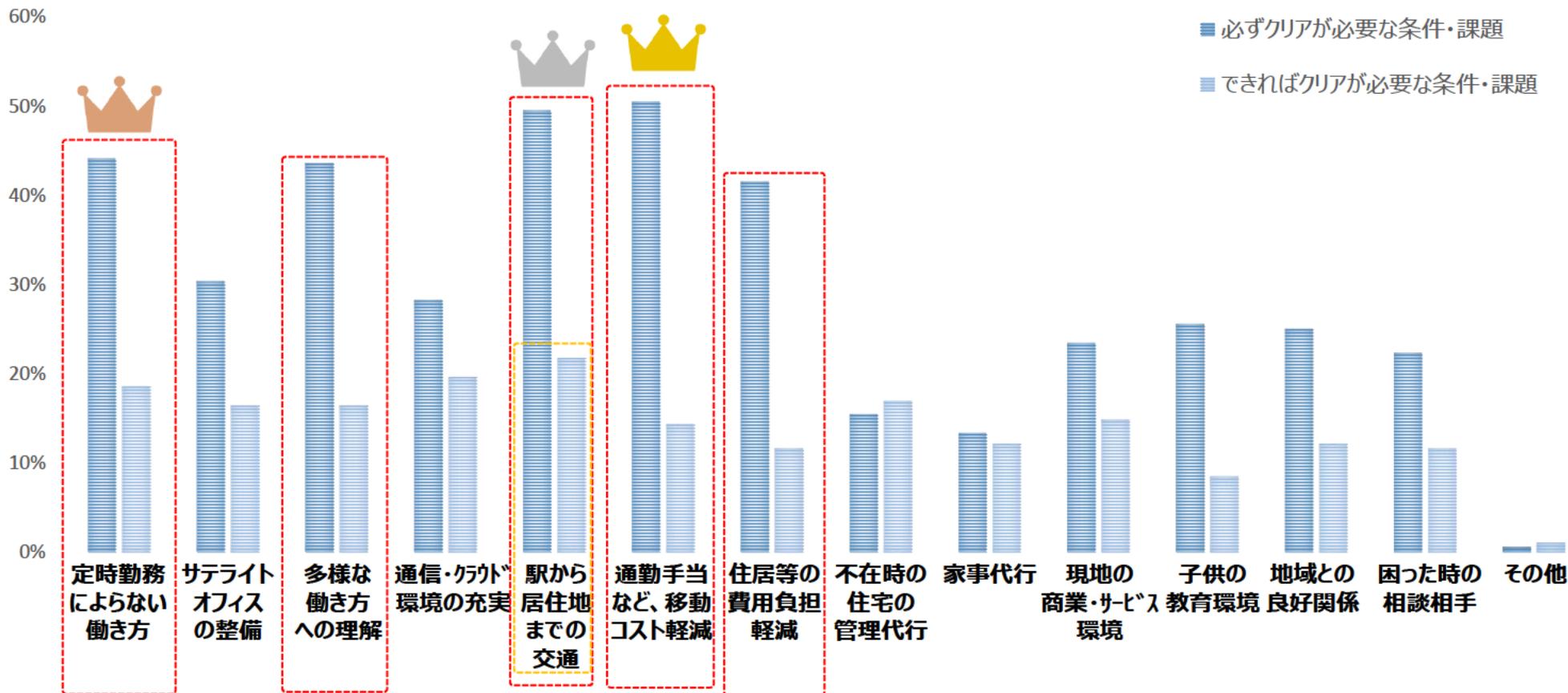
# <参考>「リニア通勤（毎日）を実現したい」と回答した回答者の属性

- 世帯年収別に見ると、年収が高いほど実現を想定できる人が増え、1500万円以上では約2割と最も多い。
- 年齢では、20代が約4割とニーズが高い。
- 職業では会社員が2割超と最も高く、業種では金融保険業、医療業、製造業、情報サービスソフトウェア業で2割超とニーズが高い。



# ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件①（リニア通勤（毎日））

- 必ずクリアが必要な条件として、「移動コストの軽減」、「駅から居住地までの交通の確保」が5割と最も求められている。次いで、「提示勤務によらない働き方」「多様な働き方への理解」「住居等の費用の軽減」が4割超で求められている。
- できればクリアが必要な条件として、「駅から居住地までの交通の確保」が最も多い。
- 前回調査では、「多様な働き方への理解」が2番目に多く挙げられていたが、今回は4番目になっている。



前回調査  
でのTOP 3



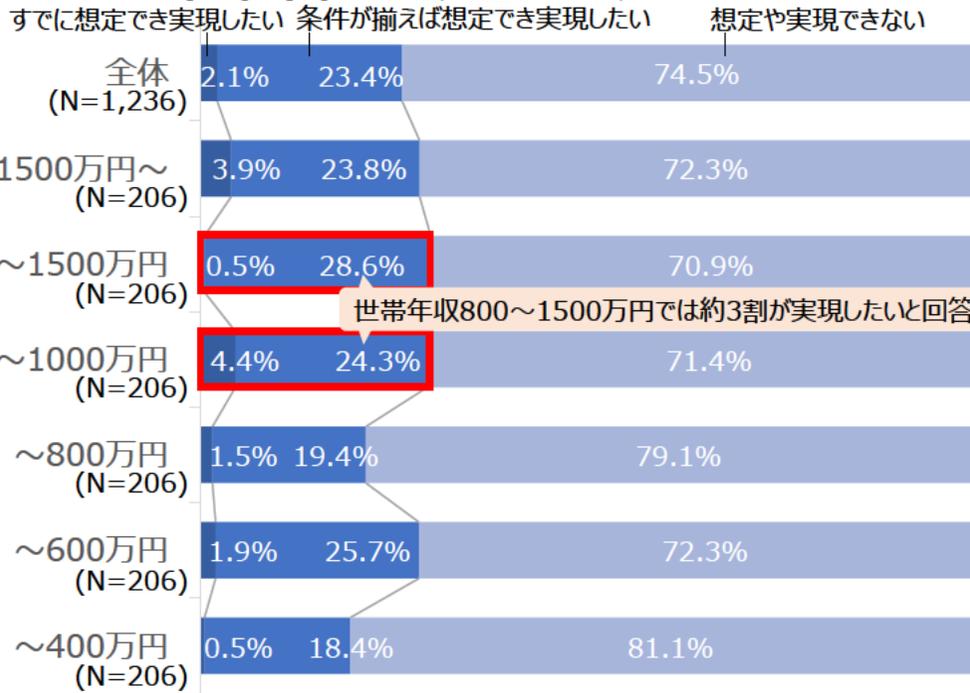
<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 16

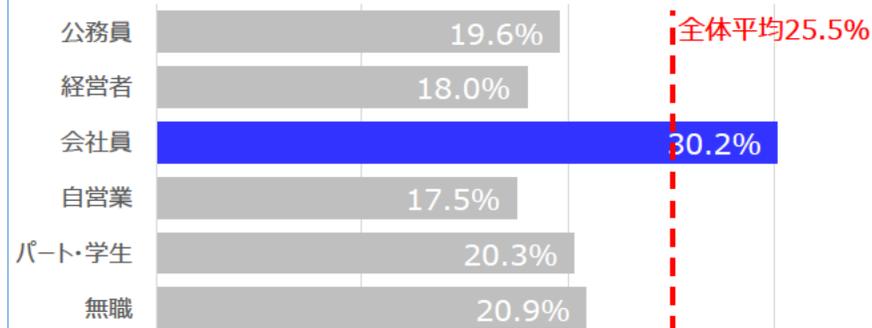
# <参考>「リニア通勤（不定期）を実現したい」と回答した回答者の属性

- 世帯年収別に見ると、800～1500万円では約3割とニーズが比較的高い。
- 年齢では、20代の半数以上でニーズがあり、最も高い。
- 職業では会社員が3割とニーズが高く、業種では情報サービスソフトウェア業で約4割と最もニーズが高い。

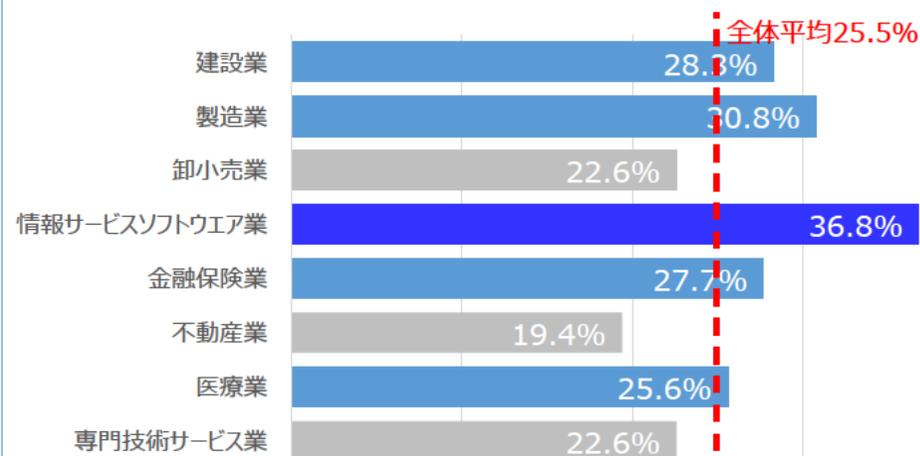
## 世帯年収×リニア通勤（不定期）の意向 N=1,236



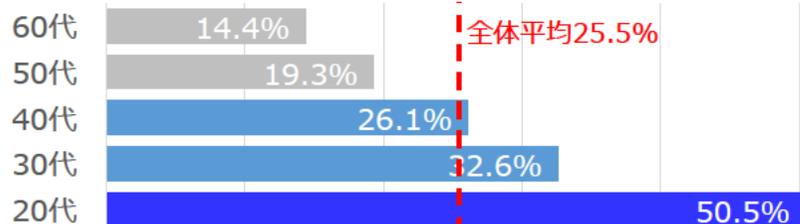
## 職業×リニア通勤（不定期）の意向



## 業種×リニア通勤（不定期）の意向



## 年代×リニア通勤（不定期）の意向

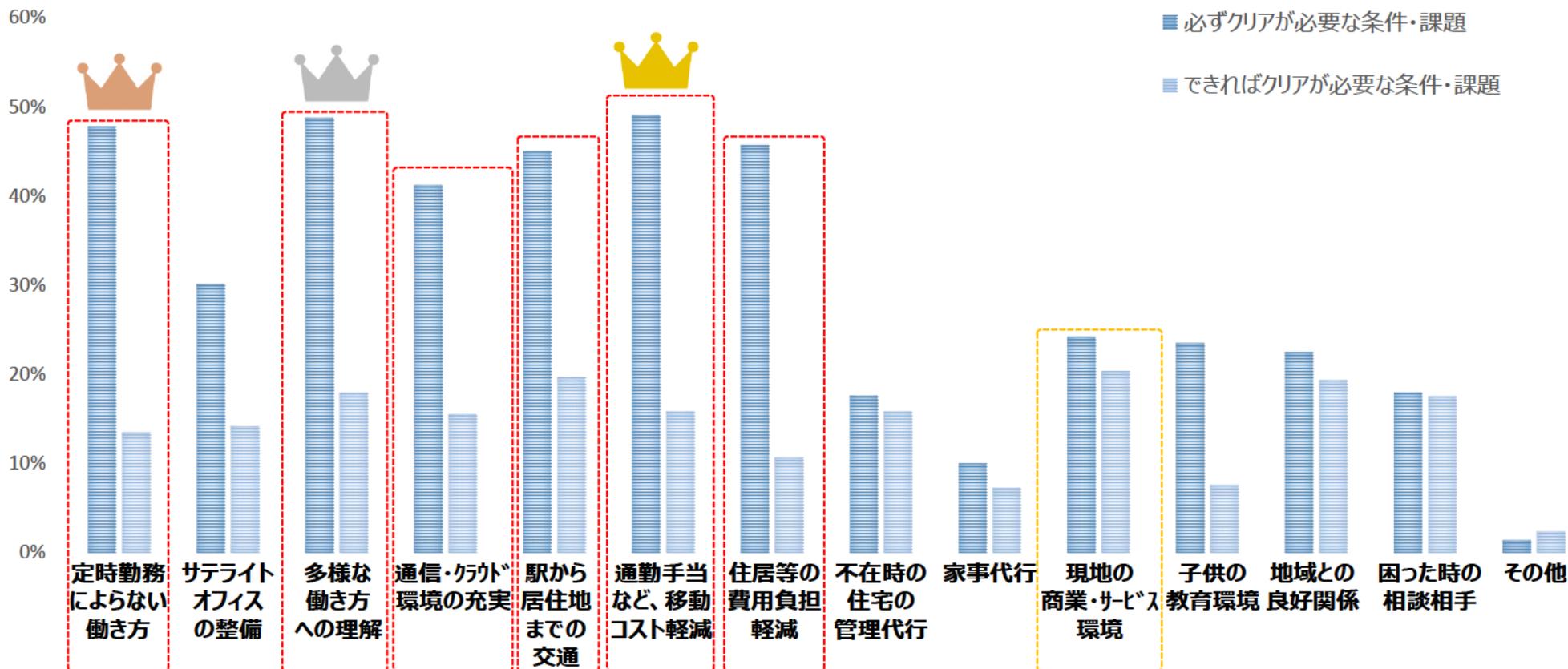


## ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件②（リニア通勤（不定期））

○必ずクリアが必要な条件として、「移動コストの軽減」「多様な働き方への理解」「定時勤務によらない働き方」が約5割と最も求められている。次いで、「駅から居住地までの交通」「2拠点居住時の住居等の費用の軽減」「通信・クラウド環境の充実」が4割超で求められている。

○できればクリアが必要な条件として、「商業・サービス環境」「駅から居住地までの交通の確保」が多い。

○前回調査でも今回のTOP3と変わらない項目が多く挙げられている。「多様な働き方への理解」が1番から2番に下がっている。



前回調査でのTOP3



<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

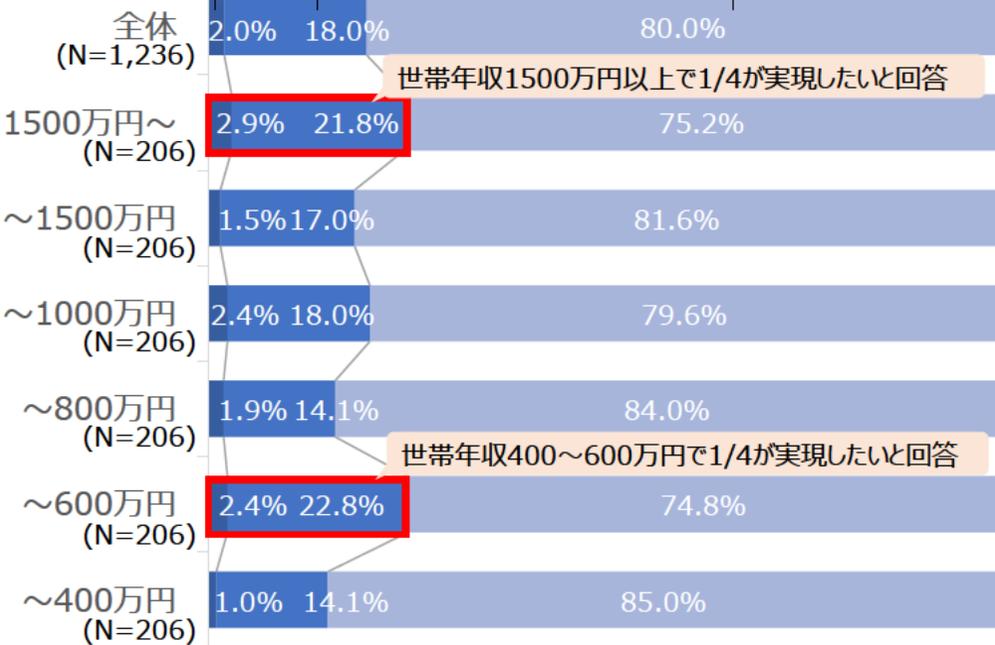
<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 18

# <参考>「二地域居住（平日都心へ単身赴任）を実現したい」と回答した回答者の属性

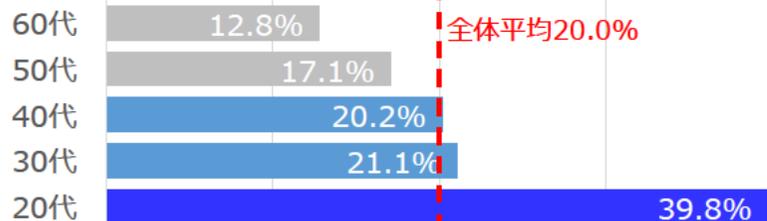
- 世帯年収別に見ると、400～600万円と1500万円以上でニーズが約1/4と比較的高い。
- 年齢では、20代が約4割と最も高い。
- 職業では会社員と自営業が2割超と比較的高く、業種では金融保険業が約3割と最もニーズが高い。

## 世帯年収×平日都心へ単身赴任の意向 N=1,236

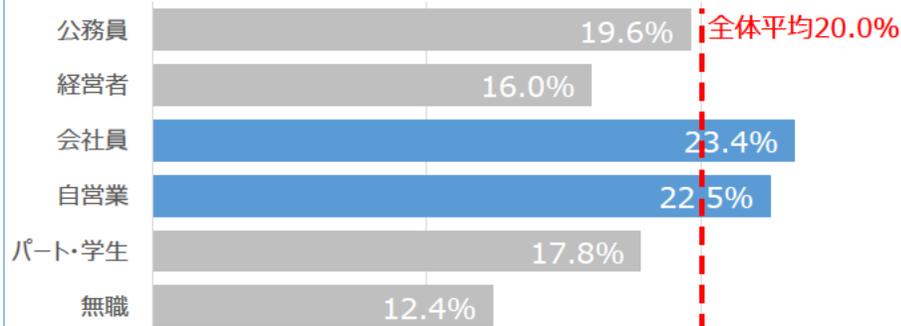
すでに想定でき実現したい 条件が揃えば想定でき実現したい 想定や実現できない



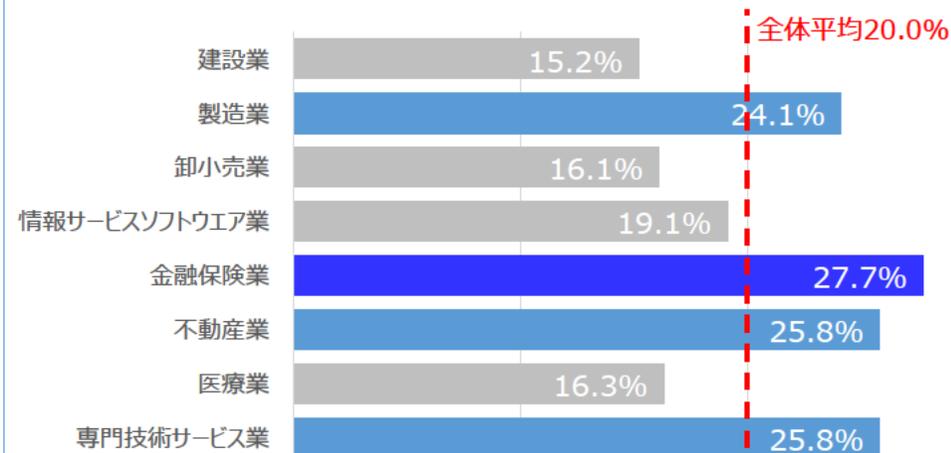
## 年代×平日都心へ単身赴任の意向



## 職業×平日都心へ単身赴任の意向



## 業種×平日都心へ単身赴任の意向

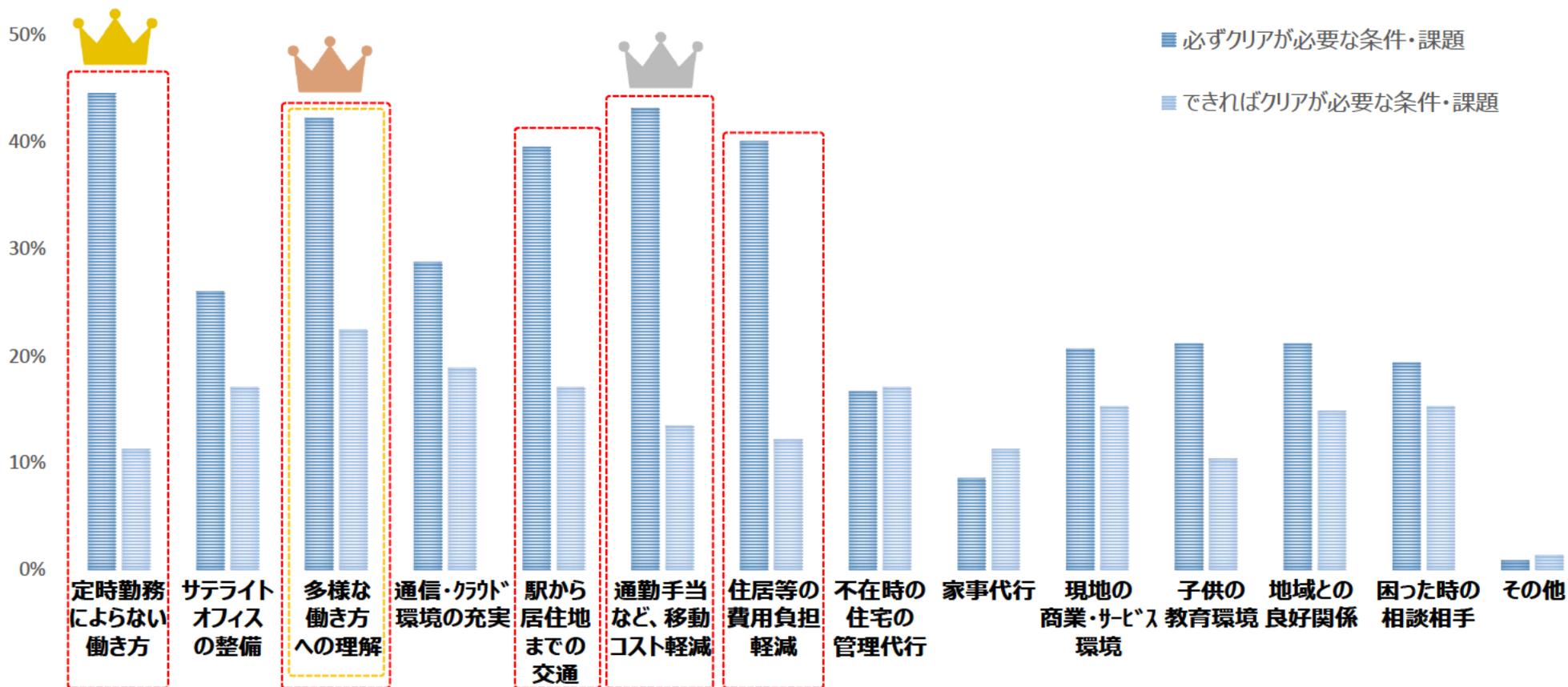


# ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件③（二地域居住（平日都心へ単身赴任））

○必ずクリアが必要な条件として、「定時勤務によらない働き方」「移動コストの軽減」「多様な働き方への理解」が4割超と最も求められている。次いで、「2拠点居住時の住居等の費用の軽減」「駅から居住地までの交通」が約4割で求められている。

○できればクリアが必要な条件として、「多様な働き方への理解」が多い。

○前回調査では、「提示勤務によらない働き方」はTOP 3 外だったが、今回は1番に挙げられている。



前回調査  
でのTOP 3



<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 20

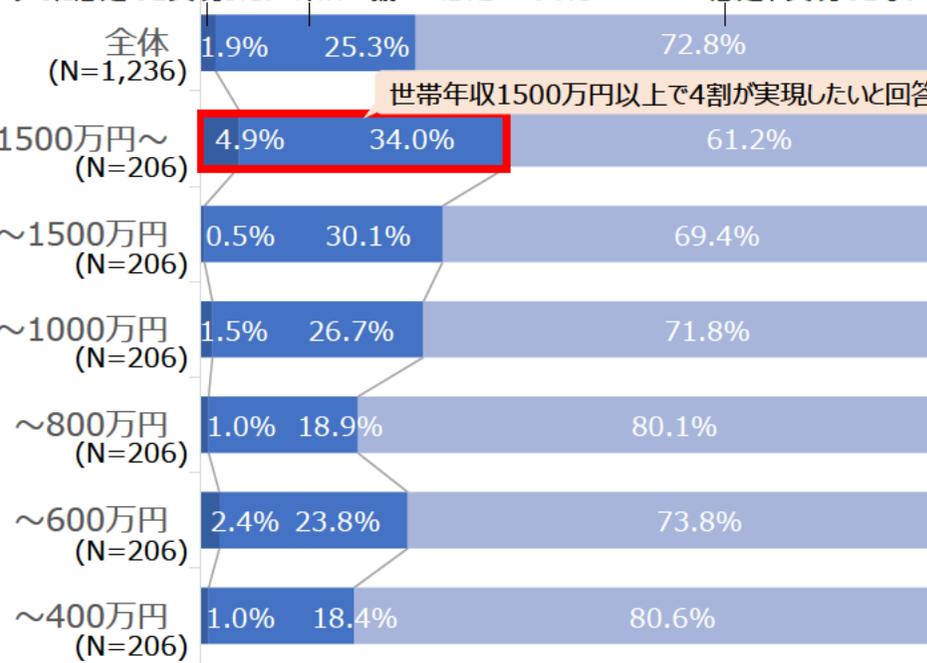
# <参考>「二地域居住（地方別荘）を実現したい」と回答した回答者の属性

- 世帯年収別に見ると、1500万円以上では4割とニーズが最も高い。
- 年齢では、20代が4割と最も高い。
- 職業では会社員と自営業が3割超と比較的高く、業種では金融保険業、製造業が約4割とニーズが高い。

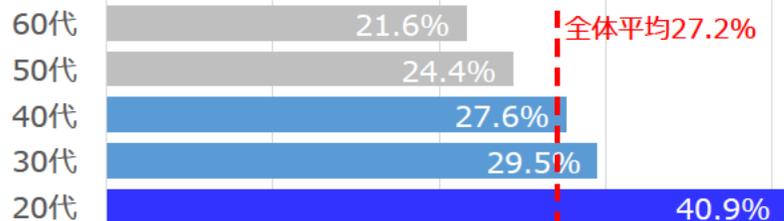
### 世帯年収×地方別荘の意向

N=1,236

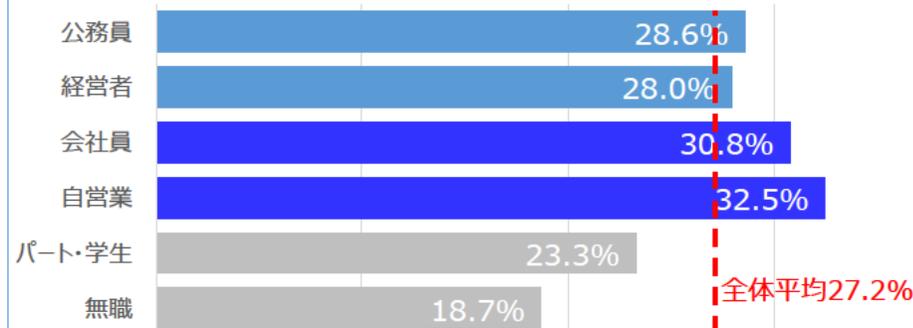
すでに想定でき実現したい 条件が揃えば想定でき実現したい 想定や実現できない



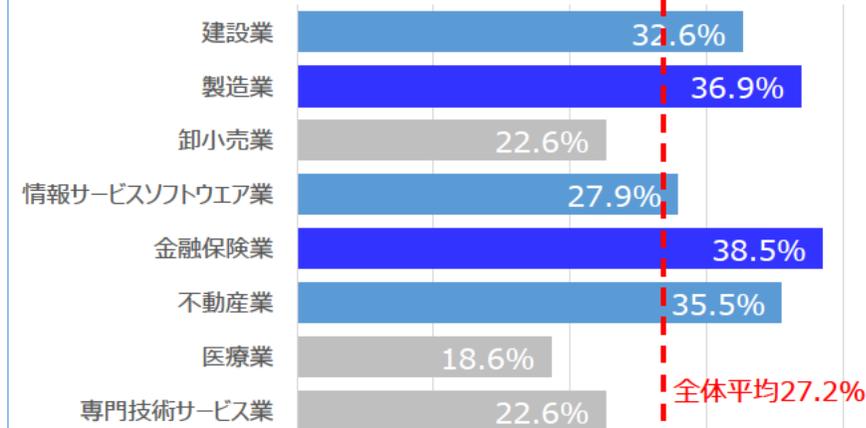
### 年代×地方別荘の意向



### 職業×地方別荘の意向



### 業種×地方別荘の意向

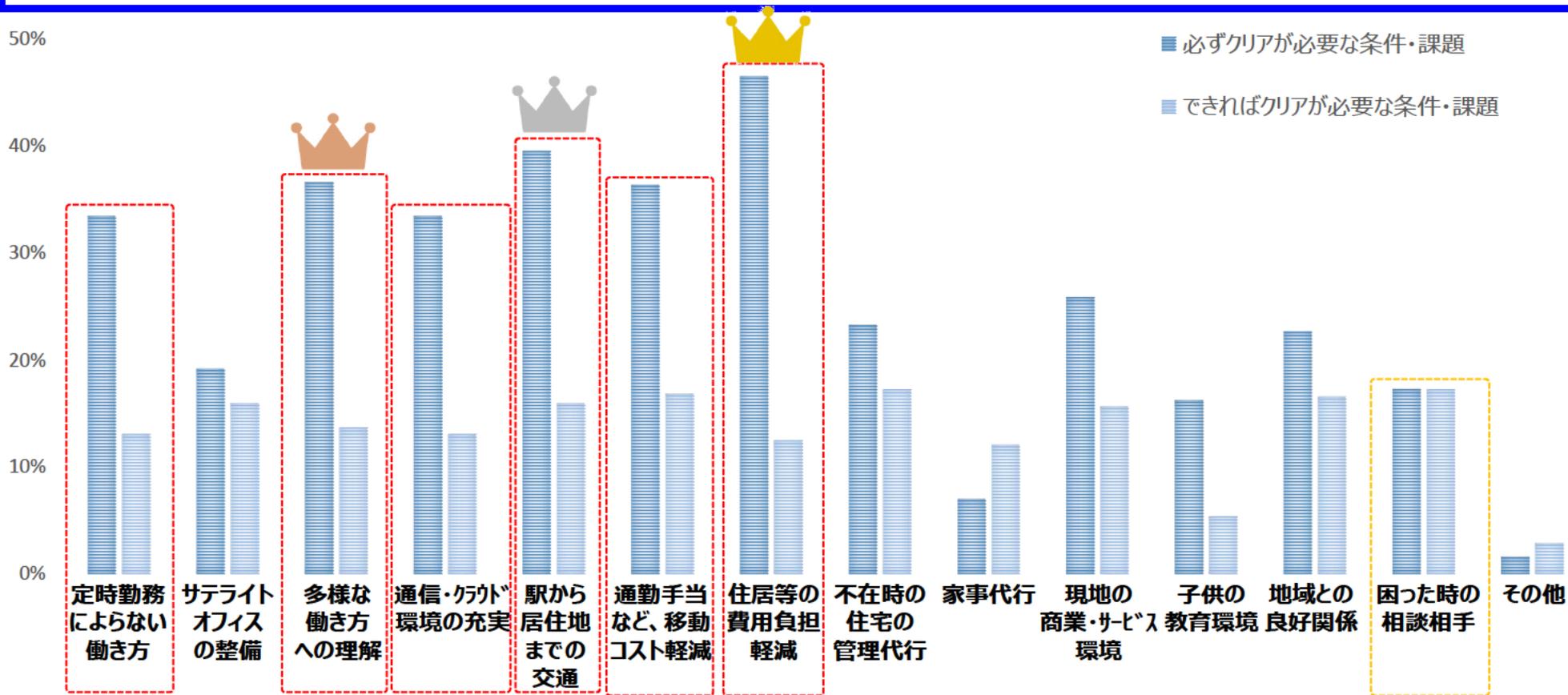


# ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件④（二地域居住（地方別荘））

○必ずクリアが必要な条件として、「2拠点居住時の住居等の費用負担の軽減」が4割強と最も求められている。次いで、「駅から居住地までの交通の確保」が約4割で求められている。「多様な働き方への理解」「移動コスト軽減」「通信・クラウド環境の充実」「定時勤務によらない働き方」が3割超で求められている。

○できればクリアが必要な条件として、「困った時の相談相手」が多い。

○前回調査とほぼ同様の条件が挙げられており、前回は「移動コスト軽減」が2番目だったが、今回はTOP 3外になった。



前回調査  
でのTOP 3

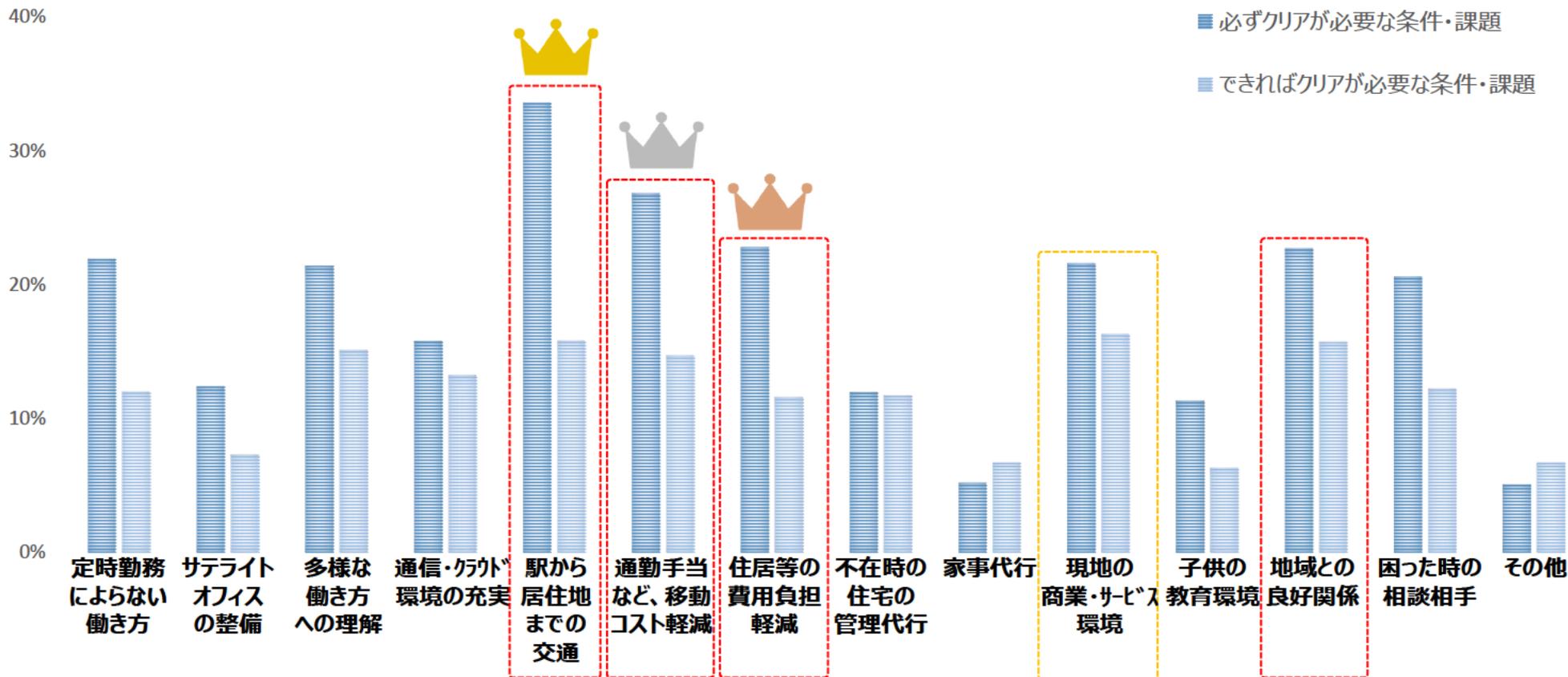


<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)~25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 22

# ライフスタイル・ビジネススタイルを実現するにあたっての条件⑤（観光）

- 必ずクリアが必要な条件として、「駅から居住地までの交通の確保」が3割超と最も求められている。次いで、「移動コストの軽減」「2拠点居住時の住居等の費用負担の軽減」が求められている。
- できればクリアが必要な条件として、「現地の商業・サービス環境」が多い。
- 前回調査とほぼ同じような条件が上位に挙げられている。



前回調査でのTOP3



# コロナ禍を経たSMRによるライフスタイル・ワークスタイルへの意向の変化

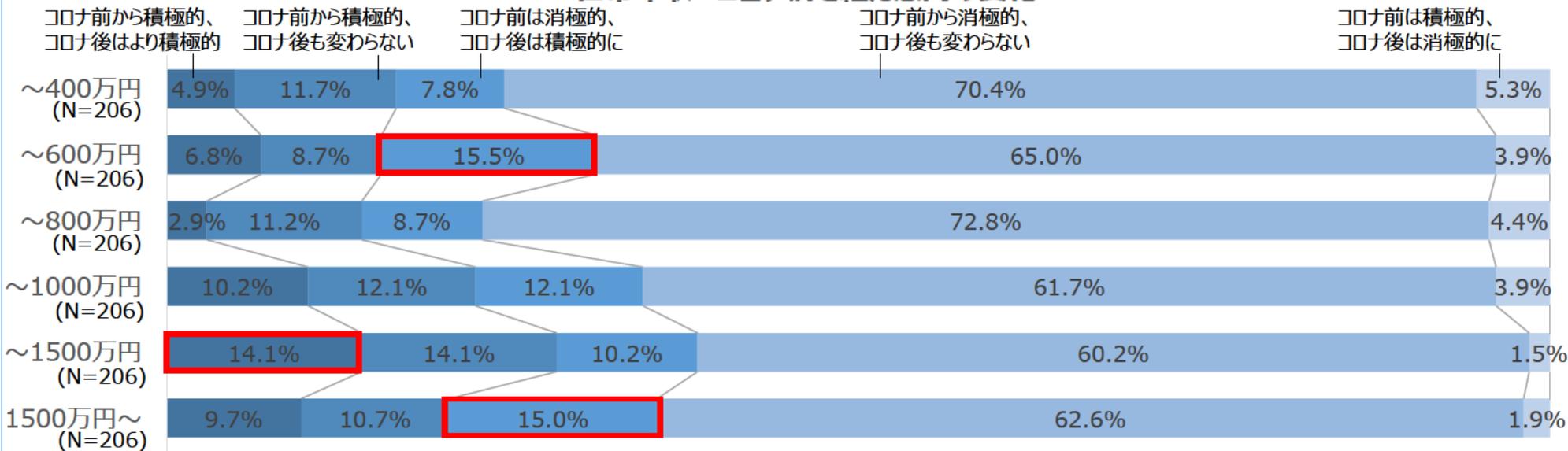
- 「コロナ前は消極的だったが、コロナ禍を経て積極的に変わった」は、1割強。また、「コロナ前から積極的だったが、コロナ禍を経てより想いが強くなった」は、1割弱。一方、「積極的だったがコロナ禍を経て消極的な考えになった」は3.5%。
- 世帯年収別では、400万円～600万円、1500万円以上で、「積極的な意向に変わった」が2割弱。1000万円～1500万円で「より積極的になった」が1割強と多い。

N=1,236

## コロナ禍を経た意向の変化



## 世帯年収×コロナ禍を経た意向の変化



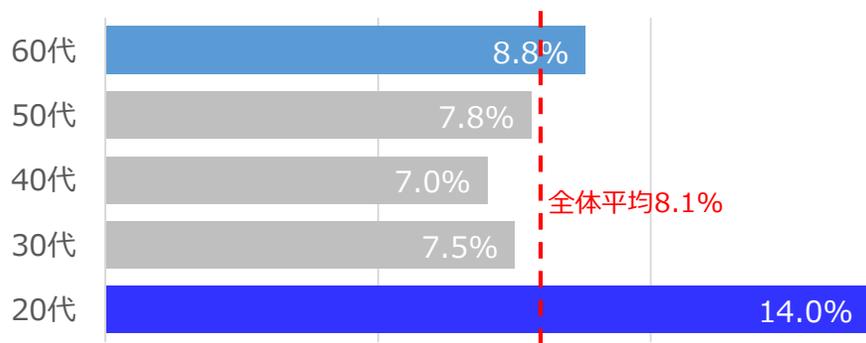
<実施日・方法> 令和3年2月22日(月)～25日(木) WEB調査

<回答者> 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県在住の調査モニター 1,236名 24

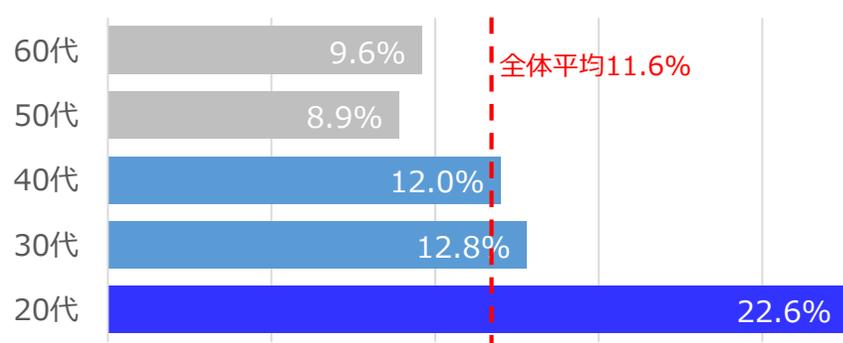
# <参考> コロナ禍を経て積極的な意向に変化したと回答した回答者の属性

- 20代は、「より積極的な意向に変化」、「消極的から積極的な意向に変化」がともに最も多い。
- 職業別では、「より積極的な意向に変化」は経営者が最も多く、「消極的な意向から積極的な意向に変化」は会社員が最も多い。

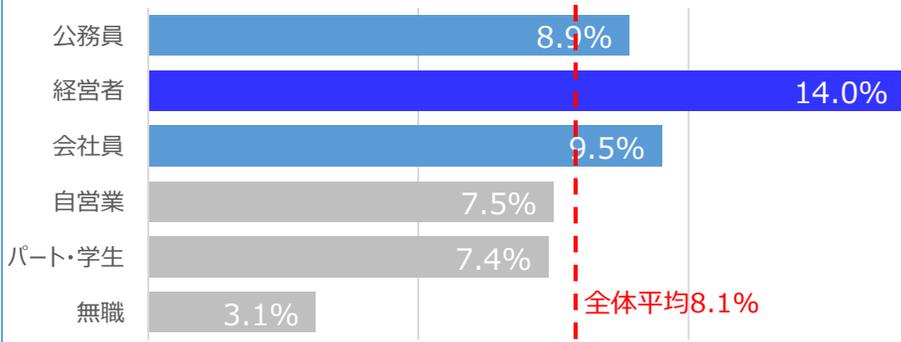
## 年代×より積極的な意向に変化



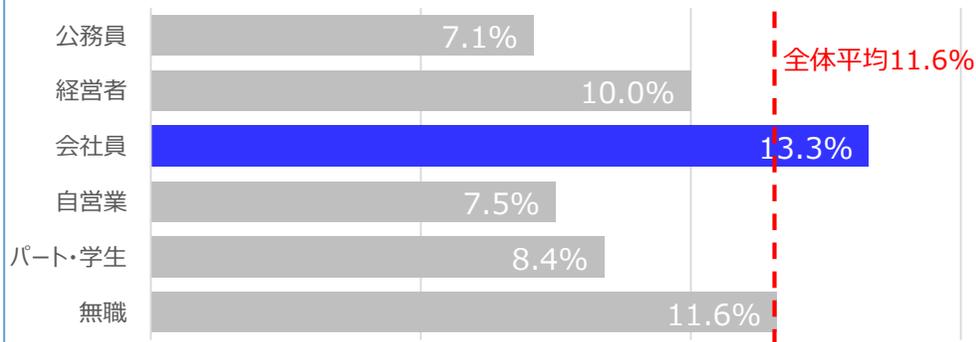
## 年代×消極的から積極的な意向に変化



## 職業×より積極的な意向に変化



## 職業×消極的から積極的な意向に変化



# コロナ禍を経て積極的な意向に変化した理由

- 「職場でリモート勤務が技術や設備、制度的に可能になったため」が5割弱と、約半数が理由に挙げた。
- 次いで、「都心の密を避けるため」が4割強。「リモート勤務が社会的に認知されるようになったため」が3割。

